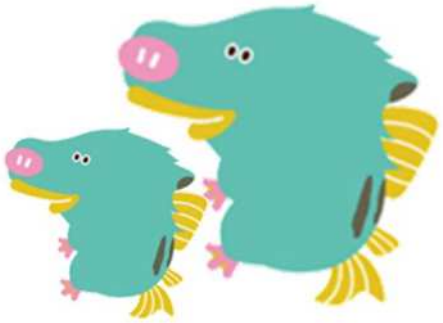
資料1



矢作川流域圏懇談会のゆるキャラ
「はぎぼう」

第16回　海部会まとめの会
今期の振り返りと来期の活動目標

1. 矢作川流域圏懇談会とは

【懇談会の目的・運営方針】

懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

懇談会の運営方針

（1）市民部会の活動の活発化

- 組織のあり方を見直し、市民部会主体の勉強会やイベントの計画を行う。

（2）流域の課題解決に向けて具体的な行動を積極的に行う

- 課題解決に向けた山・川・海部会の積極的な議論と交流を実施する。
- 勉強会やイベント等を通し、山・川・海部会の関係者が協働する。

（3）河川整備計画のフォローアップ

- 「河川整備に関わる情報共有・意見交換」の取り組みを全体会議で共有し、意見交換を行う。

2．今期の活動実績（R5.4.1～R6.11.30）

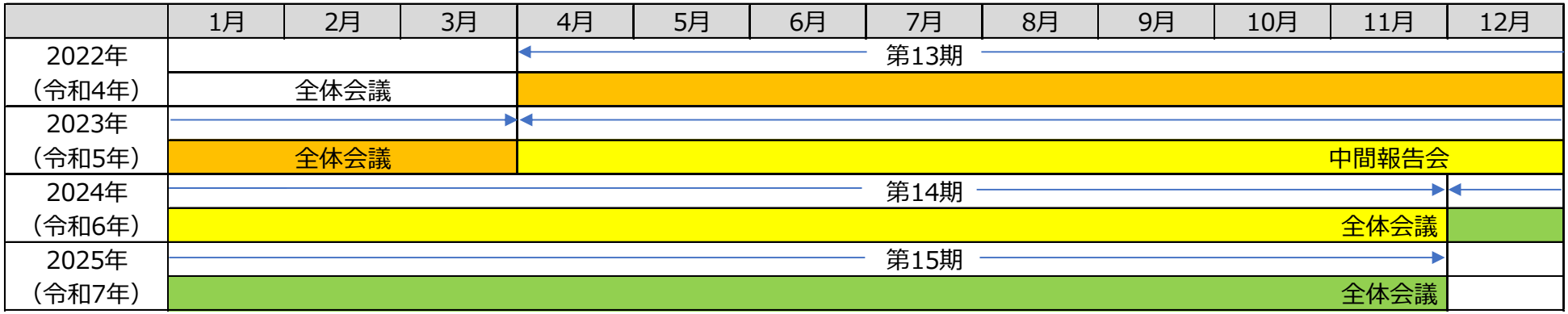
【今期からの変更点】

期による整理

例年は年度末に実施する全体会議を区切りとして年度ごとの目標を設定していた。

今期より11月に全体会議を実施するため12月1日～翌年11月30日を1つの期として整理する。今年は設立から 15 年目となるが昨年（14 年目）は中間報告会としているため、第 14 期として整理する。

第 13 期：令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日（昨期）
第 14 期：令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 11 月 30 日（今期）
第 15 期：令和 6 年 12 月 1 日～令和 7 年 11 月 30 日（来期）



2．今期の活動実績（R5.4.1～R6.11.30）

【第14期（R5.4.1～R6.11.30）の活動目標】

「豊かな海」や「海と人との絆」の再生に向けた様々な取り組みについて情報共有・意見交換を行うとともに、流域圏全体に関わるごみ問題や土砂の問題についても、今後外部に発信していくことを念頭において、他部会や外部団体との連携をはかる。

＜テーマ＞	＜当初目標＞
豊かな海の再生に向けた取り組み	○ 海の栄養塩不足に関する対策（干潟・浅場造成や矢作川浄化センターでの試験運用など）について、途中経過や観察状況の情報共有および意見交換を行う。 ○ 引き続き、アサリやノリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。 ○ 豊川の自然再生事業を見学し、矢作川流域での自然再生に活用できないか意見交換を行う。
海と人との絆再生	○ 海の生態系と流域との関係性の理解を深め、上下流連携を推進していく。 ○ 三河湾大感謝祭などの地域イベントを通じて海と人との絆の重要性を啓発する。
ごみの問題	○ 三河湾だけではなく、より広い範囲でごみ問題に関わる活動との連携を継続していくとともに、矢作川流域圏のごみ問題に関する状況等の情報交換を行う。
土砂の問題	○ 河川の治水事業や干潟・浅場造成事業の途中経過の状況を把握するとともに他部会との情報共有および意見交換を行う。

2．今期の活動実績（R5.4.1～R6.11.30）

豊川自然再生について（テーマ①豊かな海の再生に向けた取り組み）

○干潟造成箇所・ヨシ原再生箇所の見学

第52回海部会（令和５年6月5日）にて、豊川自然再生事業の干潟造成箇所やヨシ原再生箇所の現地視察を行い、自然再生事業の計画エリアについて説明があり、知見を広げるとともに会議室にて意見交換・情報共有を実施した。

豊川河口の干潟・ヨシ原の状況

豊川河口の干潟・ヨシ原の説明の様子

【意見交換の内容を一部紹介】

・豊川河口は、伊勢・三河湾の重要な場所となっており、河口域に干潟を造成するということは、稚貝の生育の場を広げるということで非常に意味がある。

・三河湾は栄養塩不足になっている。栄養塩管理と干潟の造成・保全をハイブリッドで進めていく必要がある。

伊勢・三河湾の貧栄養化について（テーマ①豊かな海の再生に向けた取り組み）

○伊勢・三河湾の貧栄養化についての情報共有・意見交換

近年の伊勢・三河湾の水産資源の動向や、海の貧栄養化現象について鈴木先生からの情報提供により意見交換を行った。

【意見交換の内容を一部紹介】

・貧栄養化の解決策として、環境基準や類型指定の見直し、広域流域処理から地域処理への転換といった負荷管理の見直し等が考えられる。

2．今期の活動実績（R5.4.1～R6.11.30）

地域連携イベントの参加（テーマ②海と人との絆再生）

○2024矢作川感謝祭・第11回三河湾大感謝祭

2024矢作川感謝祭では、矢作川流域で採れた海苔、塩、お米を使用したおにぎりを販売した。ほかにも多数の団体（山里カフェMui、坂井海苔店、山善糟屋海苔店、ワイマーケット、吉良屋、ペアツリーファーム、フードフォーチルドレン、東幡豆漁協）と協力し、矢作川流域の恵みを感じていただいた。当日の様子は矢作新報に掲載された。

第11回三河湾大感謝祭では、矢作川流域の恵みで採れた海苔の食べ比べを行った。

これらのイベントを通じて、次頁で紹介する流域圏担い手事例集Ⅴを配布し、市民の方にも理解しやすい「食」をきっかけに海で起きている様々な問題について興味をもっていただいた。

2024矢作川感謝祭の様子

2024矢作感謝祭の記事（矢作新報）

第11回三河湾大感謝祭の様子

2．今期の活動実績（R5.4.1～R6.11.30）

流域圏担い手づくり事例集（テーマ②海と人との絆再生・③ごみの問題）

○流域圏担い手づくり事例集交流会2024の実施

第14期は海に流域の問題が集約されるとの思いから、初めて伊勢湾・三河湾の豊かさをテーマとした「流域圏担い手づくり事例集」を発行し、第54回海部会WGを兼ねて事例集交流会を開催した。会場の鳥羽市立海の博物館には今まで最多の41名が集まった。多様な取材対象者と寄稿者、関連する活動団体の報告、その後に意見交換を行った。

事例集交流会は2日間に分けて開催され、初日に事例集交流会、翌日に答志島内のエクスカーションを実施した。以下に事例集交流会で登壇していただいた方の意見を示す。

青木伸一さん（大阪大学名誉教授・海部会座長）
・海の問題解決のために流域圏での連携を!・

1960年代ごろから問題になっている内湾域の水質悪化や水産資源の劣化は多くの努力をしてきたがあまり改善されていない。それは、環境問題のスケールが管理者のスケール（河川、海岸、漁場など）を超えていることにある。海に関係する人々だけでは決して解決できない。

平賀大蔵さん（海の博物館　館長）
・海の恵みと変化について・

海の博物館は、漁師、海女、船乗り、そして海辺に住む人々が海と親しく付き合ってきた歴史と現在、未来を伝える「海と人間」の博物館である。水産資源の減少等を記録し、公開することが重要と考えている。なぜ水産業の為の水が無いのか問いかけていきたい。

2．今期の活動実績（R5.4.1～R6.11.30）

流域圏担い手づくり事例集（テーマ②海と人との絆再生・③ごみの問題）

蔵治光一郎さん（東京大学大学院教授・山部会座長）
・伊勢湾・三河湾と流域の森林・

流木はかつてとても貴重な資源とされていたが、燃料革命によって価値のないゴミ同然のものとなった。流木を減らすための手段を考えるため、まず山・川・海の関係者が対話し、信頼関係を築くことが必要となる。

米田紗歩さん、筒井千遥さん（22世紀奈佐の浜プロジェクト）
・22世紀奈佐の浜プロジェクトについて・

鳥羽市答志島での海岸漂着ごみが問題となっている中、ごみを出さない社会を構築し、豊かな海を取り戻すことを目的に2012年に設立された。流域内外の活動を通じて山から海まで新たな担い手たちとの繋がりを生み出すことを目指す。

小田和人さん（海女の森プロジェクト）
・森と海を繋ぐこと－海女の森プロジェクト－・

山に木が生えている方が自然豊かと思われてきたが、現在は大きくなり過ぎ、蒸散量が増えている状態である。適切な森林伐採を進めることで集中豪雨を減らし、森と海の豊かさにつながる。

中村欣一郎さん（鳥羽市長）
・鳥羽市で取り組む海ゴミ問題について・

鳥羽市では様々な海ごみ問題に取り組んでいる。22世紀奈佐の浜プロジェクト、鳥羽のSDGsまなブック、海のシリコンバレー構想、海のレッドデータブック等の海ごみ・海岸清掃からも鳥羽の魅力を伝えている。

岡田誠さん（三重県水産研究所）
・伊勢湾の貧酸素水塊の問題について・

貧酸素水塊の原因は成層の強化や水の動きが弱まることで海底に酸素が供給されないことが原因だと判明してきた。今後着目すべきは漁業対象種に限らず、出現種や生物多様性の変化だと考える。

奈佐の浜海岸

奈佐の浜海岸
近くの湿地帯

海女小屋

○答志島エクスカーションの実施

翌日は奈佐の浜海岸のごみの状況や、奈佐の浜の近隣に形成されている湿地帯に生息するトンボと湿地環境の変遷についての説明を聞き、その後に海女小屋で新鮮な魚などを食べながら海女さんの貴重なお話を聞いた。

2．今期の活動実績（R5.4.1～R6.11.30）

土砂還元事業およびダム堆砂分級工法について（テーマ④土砂の問題）

○徳島県那賀川・長安口ダムにおける土砂還元事業の事例紹介

徳島県那賀川・長安口ダムで実施されている土砂還元事業について、青木座長より話題提供があった。那賀川・長安口ダムの事例をもとに、矢作川の土砂問題について意見交換を行った。

○矢作ダムでの土砂分級実験の現場見学・意見交換

令和5年11月15日に開催された、矢作ダムのダム堆砂分級工法の現地実験見学会に参加した。令和5年12月12日の第53回海部会WGにて、見学会に参加していない懇談会員に現地実験見学会の状況を共有し、意見交換を行った。

また、令和6年9月11日の第55回海部会WGにて、一般社団法人ダム水源地土砂対策技術研究会より、分級品質や作業効率を高める分級システムの構成や分級の流れについて動画を用いて解説して頂いた。土砂細粒分に加えて、栄養塩・有機物も効率的に分離できることを情報共有して頂き、意見交換を行った。

ダム堆砂分級工法のパンフレット（表紙）

現地実験見学会の様子

第55回海部会WG

2．今期の活動実績（R5.4.1～R6.11.30）

【今期の活動】

第14期の海部会の活動を下記以降に示す。

	活動	日時	場所・内容
第14期	**第52回WG**	令和5年6月5日（月）	場所：豊橋市役所　東館８階(東83会議室) 内容：豊川および矢作川の自然再生事業について 土砂に関する技術紹介について 市民部会発の勉強会（バスツアー）について
	第53回WG	令和5年12月12日（火）	場所：西尾市中央ふれあいセンター 視聴覚室 内容：矢作ダム堆砂土砂の分級工法について 流域圏担い手づくり事例集について
	第15回海部会 まとめの会	令和6年1月17日（水）	場所：西尾市中央ふれあいセンター 視聴覚室 内容：今年度の振り返りと次年度の目標 流域圏担い手づくり事例集について
	第54回WG 事例集交流会	令和6年7月6日～7日 （土～日）	場所：鳥羽市立海の博物館、答志島 内容：流域圏担い手づくり事例集交流会2024 答志島エクスカーション
	第55回WG	令和6年9月11日（水）	場所：西尾市中央ふれあいセンター 視聴覚室 内容：伊勢・三河湾の貧栄養化について ダム砂の分級技術の開発と試験水の栄養塩濃度の分析
	第16回海部会 まとめの会	令和6年10月24日（木）	場所：西尾市中央ふれあいセンター 多目的ホール 内容：今期の振り返りと来期の目標

3. 来期の活動目標（R6.12.1～R7.11.30）

【第15期の活動目標】

「豊かな海」や「海と人との絆」の再生に向けた様々な取り組みについて情報共有・意見交換を行うとともに、流域圏全体に関わるごみ問題や土砂の問題についても、今後外部に発信していくことを念頭において、他部会や外部団体との連携をはかる。

まとめの会で議論

<テーマ>	<目標>
豊かな海の再生に向けた取り組み	○ 海の栄養塩不足に関する対策（干潟・浅場造成や矢作川浄化センターでの試験運用など）について、途中経過観察状況の情報共有および意見交換を行う。 ○ 引き続き、アサリやノリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。 ○ 豊川の自然再生事業を見学し、矢作川流域での自然再生に活用できないか意見交換を行う。
海と人との絆再生	○ 海の生態系と流域との関係性の理解を深め、上下流連携を推進していく。 ○ 三河湾大感謝祭などの地域イベントを通じて海と人との絆の重要性を啓発する。
ごみの問題	○ 三河湾だけではなくより広い範囲でごみ問題に関わる活動との連携を継続していくとともに、矢作川流域圏のごみ問題に関する状況等の情報交換を行う。
土砂の問題	○ 河川の治水事業や干潟・浅場造成事業の途中経過の状況を把握するとともに他部会との情報共有および意見交換を行う。